

中野操先生略歴

長門谷 洋治

明治三十年十月三十日 京都府船井郡富本村大字日置（現在八木町日置）で生まれる

大正九年 京都府立医学専門学校卒業、陸軍軍医任官

昭和元年 京都府立医科大学研究科学生（病理学・指導 角田隆教授）

昭和二年 予備役編入、陸軍一等軍医

昭和六年 医学博士の学位受領（主論文・「輸血ニヨル家兔肉腫移植ニ就テノ実験的研究」）

同 年 前記論文に対し日本病理学会総会において癌研究山極賞受賞

同 年 日赤大阪支部病院皮膚科に勤務。傍ら大阪市南区長堀橋筋一―二で皮膚科中野医院を開業。自宅は大阪市住吉区松崎町一―四五

昭和七年 この年より「文身と黴毒」、「清盛の死因について」など医史小品を『通俗医学』に発表

昭和十三年 億川撰三氏の首唱に呼応し医史学普及の目的をもって杏林温故会を興し全国に同好の会員をつのり

機関誌『医譚』を発行する（二月、発会式ならびに創立記念講演会。五月、例会）

昭和十六年 『皇国医事大年表』の編著に対し昭和報公会より奨学金受領

昭和十七年 『皇国医事大年表』東京南江堂より刊行

昭和十九年 第二次世界大戦により社会情勢は次第に窮迫暗澹、ついに当局の要請により『医譚』第十七号をもって休刊

この間終戦まで三たび応召（昭和十三・十四、昭和十六―十八、昭和十九―終戦）第百四師団、陸軍病院船、天津陸軍病院、大阪連隊区司令部で軍務に服した

昭和二十年 大阪市阿倍野区晴明通六一―八で中野医院開業

昭和二十二年 五月、杏林温故会戦後第一回例会

昭和二十四年 杏林温故会を母体として日本医史学会関西支部創立

昭和二十七年 機関誌『医譚』復刊第一号（通号第十八号）を発行

昭和二十九年 内山孝一日本医史学会理事長の協力要請により伏屋素狄の研究に従事、三木栄の協力を得て新知見を得る

昭和三十一年 第五八回日本医史学会総会（東京）において「大坂蘭学史」特別講演

昭和三十二年 第五九回日本医史学会々々長（大阪）。前日には公開講演会を行う（三月）

同 年 『医譚』発刊二十周年記念祝賀会（十月）

昭和三十三年 第六〇回日本医史学会総会（東京）において内山

孝一會長より医学史の發展と普及につくした多年の功勞に対し感謝状をうける

昭和三十四年 『大阪医学風土記』刊行

昭和三十八年 緒方洪庵百年忌記念事業として、大阪市立博物館で行われた『緒方洪庵』展に協力。宗田一と図録を編集。記念講演会（三月）

同 年 第六四回日本医史学会總會々々長（大阪）

昭和四十二年 『医譚』発行三十周年記念特集刊行（医譚復刊第三五号、通号第五二号）記念祝賀会

昭和四十三年 開業医にして多年医史学の發展につくした貢獻に対し日本医師会（武見太郎會長）より最高優功章をうける

昭和四十五年 『浪華医家名鑑』（原刻弘化二年）復刻に対し「解説篇」執筆刊行（前田書店）

昭和四十七年 『増補日本医事大年表』刊行（京都思文閣出版）

昭和四十八年 『毎日放送』企画刊行の『大阪文化双書』所収『大阪の蘭学』執筆

昭和五十年 第七六回日本医史学会總會々々長（大阪）

昭和五十一年 大阪府医師会（山口正民會長）より医学功勞者として表彰される

昭和五十二年 『医譚』中野操先生傘寿祝賀記念誌刊行（医譚復刊第四九号、通卷第六六号）

昭和五十四年 『大坂蘭学史話』刊行（思文閣出版）日本医史学会五十周年記念式典にて功勞者として表彰をうけ

る

昭和五十五年

日本医学文化保存会より医学民俗関係の錦絵二百点寄贈により感謝状をうける。『錦絵医学民俗志』刊行（金原出版）

同 年

大阪市長より文化功勞に対して市民表彰をうける『船場の医者』（大阪市東区医師会三十周年記念誌）中の『江戸時代 船場医人伝』執筆

昭和五十八年

昭和六十年

『大坂名医伝』刊行（思文閣出版）『大坂医師番付集成』刊行（思文閣出版）『医譚』中野操先生米寿祝賀記念誌刊行（医譚復刊第五四号、通卷第七一号）

昭和六十一年

三月二十一日没。享年八十八歳

中野操先生著作目録

長門谷 洋治

単行書

書名	発行所	発行年月	備考
皇国医事大年表	南江堂	昭和七・二	
京都府立医科大学八十年史	京都府立医科大学	昭和三・八	粟田口療病院時代執筆担当
大阪医学風土記	自家版	昭和三四・十	
緒方 洪 庵	適塾記念会	昭和三八・三	グラビア版 宗田一共著
増補日本医事大年表	思文閣	昭和四二・十二	復刻再版増補
浪華医家名鑑解説篇	前田書店	昭和四五・十	前篇弘化二年前版復刻
大阪の蘭学	毎日放送	昭和四九・十二	大阪文化双巻の内の第九問所収
大坂蘭学史話	思文閣出版	昭和五〇・三	
錦絵医学民俗志	金原出版	昭和五五・七	
船場の医者	大阪市東区医師会	昭和五七・四	江戸時代船場医人伝執筆担当
大坂名医伝	思文閣出版	昭和五八・四	大阪医学風土記の訂正増補

題目	掲載雑誌	巻号	発表年月
大坂医師番付集成	前田書店	昭和六・四	索引・解説 古西義磨 (番付四十 五枚復刻)
年表・年譜・目録の編者			
明治京都医事年表	日本医史学雑誌	二九・二五号	昭和六・三
支那医学年表	医 譚	一七号	昭和九・六
種痘伝来百年記念資料展観目録	京都府医師会報	八号	昭和三五・十
江戸後期京阪に於ける近代実証医学史料展観解説目録	医 譚	復刊 一四号	昭和三五・三
家藏牛痘種法資料目録	医 譚	復刊 三号	昭和三六・五
山脇家系譜	医 譚	復刊 三三号	昭和三七・七
山脇東洋年譜	医 譚	復刊 三三号	同 七
緒方洪庵年譜	医 譚	復刊 三三号	昭和三六・九
緒方洪庵関係文獻	医 譚	復刊 三三号	同 九
富士川游略年譜	医 譚	復刊 三三号	昭和四一・六
大阪府医師会史年表(明治期担当)	大阪府医師会史年表		昭和四二・十一



稲沢宗庵と体温測定	日本におけるカテテル導尿法の文献的考察	「奉使日録」をめぐって	堺県医学学校と校長森鼻宗次	医 者 番 附 明治初年の京都と外国人	徳川撰三先生伏屋素狄の研究	石炭酸史断片	石川大浪のこと	大阪蘭学史	大阪蘭学史要	顕微鏡についてのわが国最初の文献	ボムベの種痘書について	小石元俊の医学上の功績について	関西における西洋医学教育について	医薬に因む浪華の足跡
治 療	医 譚	日本医事新報	日本医史学雑誌	綜 芸	日本医事新報	医 文 芸	日本医事新報	綜 芸 日 報	薬 事 日 報	日本医事新報	日本医事新報	日本医事新報	第一五回日本医学会総会学術集会記録	武 田 薬 報
第三卷 四号	復刊 二号	一五五号	復刊 一号	一八一九二〇号	一五七号	第一卷 四号	復刊 七号	一八五号	一六五号	復刊 一四号	一七九号	一八〇九号	第一卷	
昭和二六・四	同 五	同 九	昭和二九・四	同 四・四・五・七	同 九	同 四	昭和三三・三	同 四	同 九	昭和三二・三	昭和三三・五	同 二・二	昭和三四・四	同 四
医学の跡をたづねて(大阪)	西南の役における博愛社救護班の活動について	木村兼度堂をめぐる医家たち	日本における赤十字思想の発展について	大阪の蘭学とその特徴	緒方洪庵と堺の医人	華岡青洲先生生誕二百年を記念して	緒方洪庵とカネ医学の跡をたづねて(伊勢)	山脇東洋二百年忌に寄せて	「察病亀鑑」の著者青木浩齋について	書簡からみた頼山陽の咯血	源氏物語にみられる病氣とお産	前野良沢の晩年に		
実 験 治 療	日 赤 医 学	医 譚	日 赤 医 学	武藤記念講座講演速記	和 泉 志	日本医事新報	医学のあゆみ 実験 治療	京 都 医 報	蘭学資料研究会研究報告(以下蘭研報告)	日本医事新報	YTV放送台本(日本の文学)	日本医事新報		
三八号	第三卷 五号	復刊二〇・二一・三三・三四・三六・三〇	第三卷 一号		二号	一九二〇号	第三卷二〇号	三七号	二二二号	二〇〇号	一七四回	二〇三三号		
同 八	同 九	同 八 一三九・一三	昭和三五・一	同 一	同 一	同 一	昭和三六・三	昭和三七・一	同 五	同 九	同 一	昭和三八・四		

適塾と久坂玄機 医者・人としての 緒方洪庵先生 目で見える医家風俗 志	北区医師会会誌 日本医事新報 いづみ	六四号 二四三三号	同 同 昭和三九・六	晩年の橋本宗吉 阿倍野墓地と二人 の医人 新元会図中の西哲 像について 坪井信道の日習堂 塾創立について 日習堂とその平面 図について(青 木一郎共著)	医 譚 阿倍野区医師会 報	復刊六号 七〇号	同 昭和三九・三
ロイトルとボード インー同一人説 を否定す— 大阪における蘭学 の学統について 明治初期の大阪医 学校とオランダ 人教師 シーボルトの『治 療日記』	日本医事新報 蘭 研 報 告 関西日蘭協会講 演原稿 日本医事新報 蘭 研 報 告	二〇八号 二七号 二九三九四号 一八二号	同 昭和平・二 昭和平・一 同 同 同 同	蘭学界の先覚者坪 井信道 ヒボクラテスの漢 字名について 大阪の吉益家につ いて ヨングハンス覚え 書	日本及日本人 蘭 研 報 告 漢方の臨床 医 譚	蕙風号 三七号 第三卷三号 復刊四号	昭和平五・五 同 同 同 同
蘭学者と経済生活 土肥 慶蔵先生の 『世界微毒史』 をめぐって (生誕百年記念 講演)	日本皮膚科学会 雑誌 日本医事新報 日本医事新報	第一六巻・九号 三三九号 三四八号	同 同 同 昭和平・五	大阪性病学史話 (第二百回日本 皮膚科学会大阪 地方会記念講 演)	皮 膚 蘭 研 報 告 医 家 芸 術	第三卷四号 二六三三号 第六卷二号	昭和平六・一 同 同
石川大浪のことど も 癌という漢字につ いて	日本医事新報 蘭 研 報 告 西 宮 文 化	三三九号 一六・一九号 一四号	同 同 同 昭和平・五	大槻玄沢と大阪 日本人の描いたシ ーボルト画像 ハイステル Heis- terの画像につ いて 若き日のシーボル ト	蘭 研 報 告 大 塚 薬 報	三三三号 二〇〇号	昭和平六・六 同 同
『日本洋学編年史』 の補訂 名塩の医家億川百 記をめぐって	蘭 研 報 告 西 宮 文 化	一六・一九号 一四号	同 同 昭和平・五	山脇門下の若越医 人について	医 譚	復刊四号	同 同 昭和平六・六
大阪蘭学史跡並解 説	蘭 研 報 告	二〇八号	昭和平・五				同 同 昭和平六・六

大阪の蘭学 橋本  
宗吉より緒方洪  
庵まで(大阪市  
医学会特別講  
演)

大阪市立大学医  
学雑誌 第三卷  
七九号

昭和四九・九

シーボルトと門人  
たち

和蘭字彙月報

四・五号

同 九

木村兼葭堂と蘭学  
者

大阪春秋

四一九号

同 九  
一・二

華岡青洲先生とそ  
の時代(近畿学  
校医連合会総会  
特別講演)

学校医連合医学  
雑誌

復刊第四号

同 二

大庭雪斎と大阪  
コレラ流行史

医学選粹

五号

昭和五・一

日本最初の強制種  
痘(蝦夷種痘)「  
私の医人伝・橋本  
宗吉」

クリニク・マ  
ネジメント

八号

同 二  
一・二

大阪の蘭学とヒュ  
ーマニズム

大阪府医師会報

一四号

昭和五・一

津田進三氏の「杉  
田玄白と華岡青  
洲」を読んで

日本医事新報

二七〇号

同 十

中天游を見なおそ  
う

適塾

二号

同 二

大阪府の医史

図録日本医事文  
化史料集成

五卷

昭和五・四

明治初期の大阪医  
学校とオランダ  
人教師

日蘭のかけ橋  
(関西日蘭協会)

一

同 七

大阪の蘭学事始め  
(関西日蘭協会)

日蘭のかけ橋  
(関西日蘭協会)

三

昭和五・七

錦絵医学民俗志 日経メディカル 三九号 昭和五九・一

〔後記〕

中野操先生の略歴および著作目録については、先生ご自身が『医譚』の復刊第三五号(昭和四十二年)および第四九号(同五十二年)に記しておられ、今回はそれを基本とし、さらに略歴については、松田武氏の「中野操先生年譜」(『適塾』第一九号、昭和六十一年)を参考にし、ご令息にも聞いていただいた。中野先生は他に多数の小品・随想をものしておられ、また講演も学会以外に頻繁に行われて、それらの目録を残しておられるが、今回は割愛させていただいた。編者の不注意から晩年期を中心に見落した項目、論著もあるかと思われ、お詫びとともに、追訂をお願いしたい。

(大阪府豊中市)